

お楽しみ話芸の世界

第32回 秋亭

会場 東大泉 妙延寺

in 東大泉

出 演

古今亭菊龍
三遊亭神楽
古今亭志ん五
三遊亭鳳笑

(ゲスト出演) 講談 田辺 凌天

出演者は変更になる場合があります。
上記は出演順ではありません。

日 時 令和6年11月16日(土曜日)

受付開始 午後2時

開 演 午後2時30分(終演予定 午後5時頃予定)

会 場 東大泉 妙延寺(練馬区東大泉3-16-5)
(03-3922-0027)

木 戸 3,000円(学生1,500円、中学生以下無料)

木戸銭は当日受付でお支払いください。

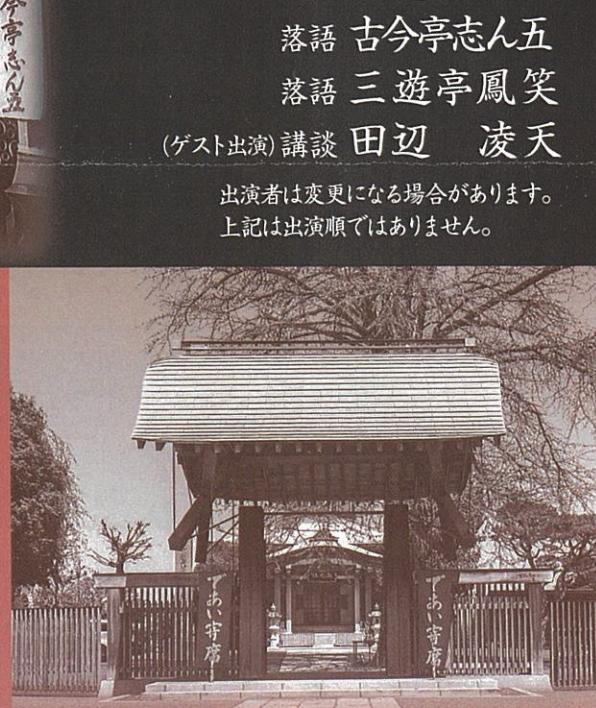
○この催しはどなたでもお楽しみいただけます。

ご家族、お知り合いの方お誘い合わせてお楽しみください。

お問い合わせ あい寄席実行委員会 〒113-0022 東京都文京区千駄木2-20-12-501 楽天舎書房内(幹事 宮崎 090-1849-4961)

主催 あい寄席実行委員会 共催 妙延寺 協賛 日蓮宗新聞社／立正大学校友会／立正高等学校同窓会

てあい寄席



あい寄席

春秋

あい寄席 口上

最近のこと、「禁演落語」というものの存在を知りました。戦時中、時代の圧力から内容が世の中の風潮にそぐわない高座にかけることが自粛された53演目の落語があったそうで、その演目には「品川心中」「子別れ」「居残り佐平次」「五人回し」などが挙げられています(小島貞一著「禁演落語」ちくま書房)。

ちなみに、台東区寿の本法寺境内にその台本が封印のため塚をつくって収められ、その碑文には「葬られたる名作を弔い尚古今小嘲等過去芸を供養する為」と刻まれています。また、最近のNHKテレビでその存在を今積極的に高座にあげて風化させまいとする漸家の皆さんのがいられることが紹介されました。

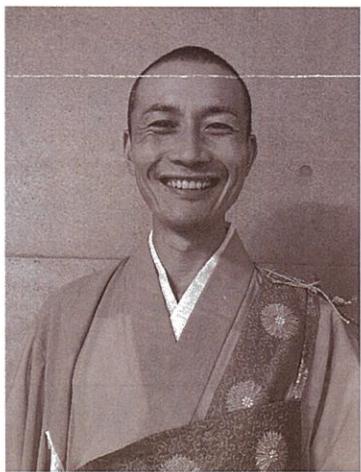
秩序に逆らうような馬鹿馬鹿しいネタ嘲、世情を揶揄するようなネタ嘲、そんなものが漸家自身によって自粛されることになったのだとうと思われますが、笑いの世界にまでもそのような統制がしっかりと影を落としたことに、言ひ知れずの怖さを感じさせられます。

21世紀の現在においてこそ、陰険な権力の行使によって思想が抑え込まれ、強制され、事実が歪められるような例が嫌といふほど蔓延しています。現代人が歴史に学んできました。権力はどこへ行つてしまつたのだろうかと、時にぶかられ虚しさに苛まれるところを経験します。

落語に久々口を開けて大笑いする、講談の語りに不甲斐なくも涙するような機会があること、ふと、その瞬間にまことの平和があることを「禁演落語」から知らされました。

No.32 令和6年(2024年)9月20日発行

発行 あい寄席実行委員会
制作 (株)鷗工房/印刷 (株)有伸/写真 ケイプランニング



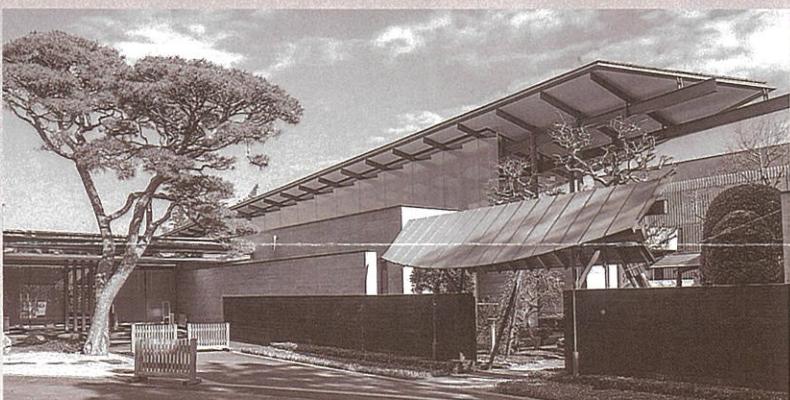
共催寺院のご紹介

東大泉 妙延寺

(一)住職 影山海雄上人
練馬区東大泉3-16-5

創建は今から四百余年昔、永禄十一年(一五六八年)。円乗院日宣上人による開山。中興の祖とされる第六世日要上人の時代を経

て、第十一世日豊上人の代に中山法華經寺永代直末寺となり旗本、武家の庇護を受けるなど大いに興隆を見る。幕末期の混乱もあり明治期に一時衰退もするが、大正期以降代々の住職の功あって再び寺盛を取り戻し、ことにより本堂が落慶され、さらに平成十八年、第三十四世山田正憲上人によって庫裡が斬新なものに建て替えられ、本堂とともに機能美溢れるモダンな伽藍が整えられた。本堂前の大イチヨウは創建期以来四百年の風雪に耐え続けた都内屈指の樹齢木。日蓮大聖人御像(当山最古の像。一六四一年の造頭)、釈迦三尊二宝像、四菩薩像、四天五像ほかの寺宝を有する。



会場へのご案内

- 西武池袋線「大泉学園」駅北口より徒歩5分。
- 「大泉学園」駅は、池袋から準急、各停でおよそ15~20分。
- 乗り入れのメトロ有楽町線、
メトロ副都心線も利用できます。

会場 妙延寺

オリジナル弁当



大泉学園駅
Ōizumi-gakuen Station

